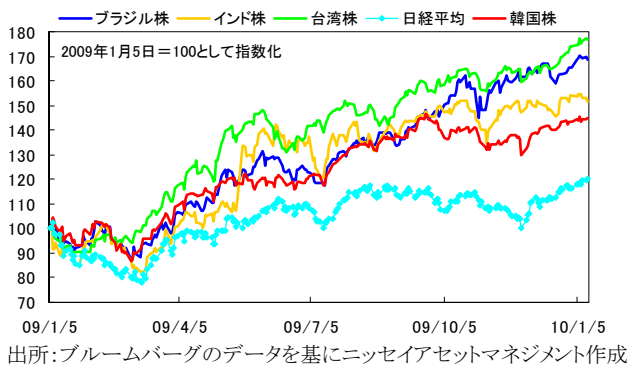


日本株の出遅れ感と外国人投資家の日本株買い越し

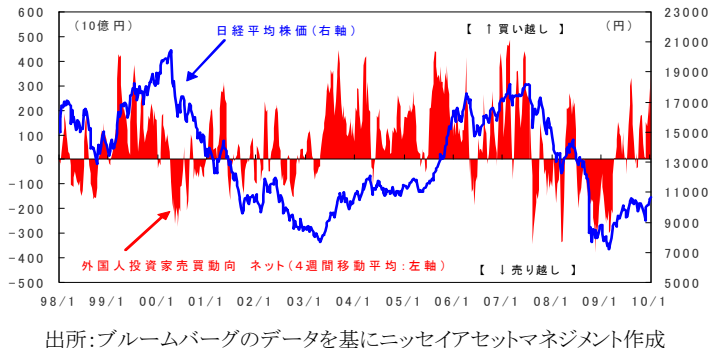
- ✓ 外国人の日本株買い越し傾向は年初に増加
- ✓ 外国人が日本株買い越しに転じる背景の一つには「日本株の出遅れ感」がある模様
- ✓ 現在の経済環境は、1998年～99年の悲観一色に似ているが、その環境の中、当時、外国人は日本株買い越しに転じ、株上昇を先導

昨年年初からの日本株のパフォーマンスを見ると、エマージング株を中心に世界の株式市場が回復する中、日本株のみ出遅れ感が顕著です（図表①参照）。日本株の売買シェアが最大の外国人は、高成長が見込まれるエマージング諸国を中心に積極的な投資を行う一方、低成長国である日本の株はパッシング（素通り）しているとの報道が盛んに行われてきました。しかし、今年に入り、外国人の1月第一週の買い越し額が約5年10ヶ月ぶりの高水準を記録しました。売買シェアが最大（図表③参照）である外国人の「買い越し転換」は過去、日本株の上昇のエンジンとなってきたため、今後の株式市場の方向性を占う上で注意が必要です（図表②参照）。例えば、1999年の株価回復の局面を先導したのは外国人投資家でした。当時の日本は、バブル崩壊後の金融不安に対し公的資金投入の決定やゼロ金利政策で経済危機を乗り切ろうと模索していた時期で、現在と同じく経済は悲観一色でした。ところが外国人はこの局面で「日本株の過小評価/出遅れ感」を打ち出し、日本株を買い越しはじめたのです。この動きが当時の日本株上昇を先導しました。今局面も同じことが起きるのか注目です。

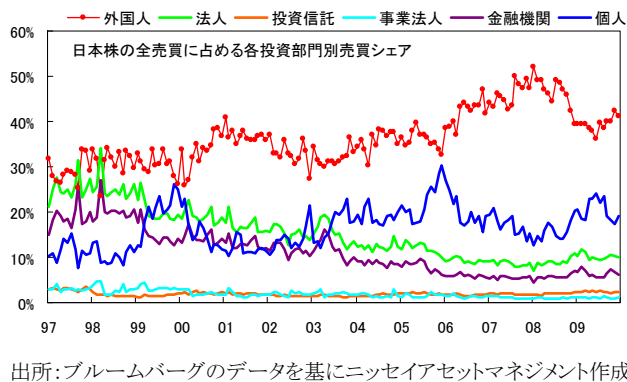
【図表①】



【図表②】

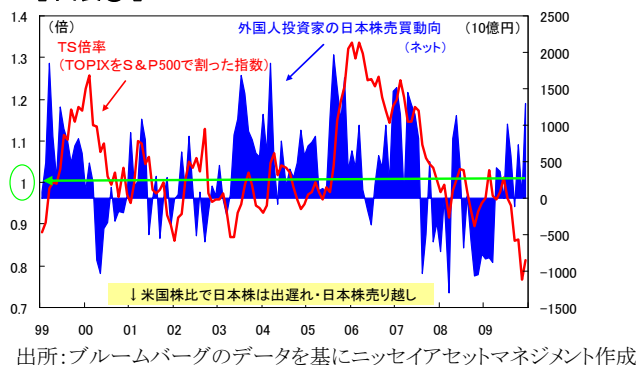


【図表③】



冒頭でも述べましたが、世界各国との成長率の対比で、日本の成長率は今や低位の分類に入ります。このような低成長国の株に外国人が目を向けるとすれば、その要因の一つは「出遅れ感」かもしれません。例えば、米国株と比較した日本株の出遅れ感を示唆するTS倍率(TOPIX/S&P500)は、ここ約50年間で最低水準に低下しており、日本株の米国株に対する出遅れ感が顕著となっています。過去、同数値が1を下回る局面(図表緑ライン部分)は外国人の日本株買い越しのきっかけとなっているようにも見えます(図表④参照)。

【図表④】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

